

こども
みらい
風物詩

山里に吹く春風は、

子どもたちにも

新たな季節の訪れを告げる。

新しいものと古いものとの融合ゆうごうのなかで

子どもの世界にも時代の先端を行く、

さまざまな経験がおりこまれる。

木洩れ日こもをうけた暖かな生命いのちの鼓動こどうは

人々を新たな躍動やくどうへといざなう。





S p r i n g

春

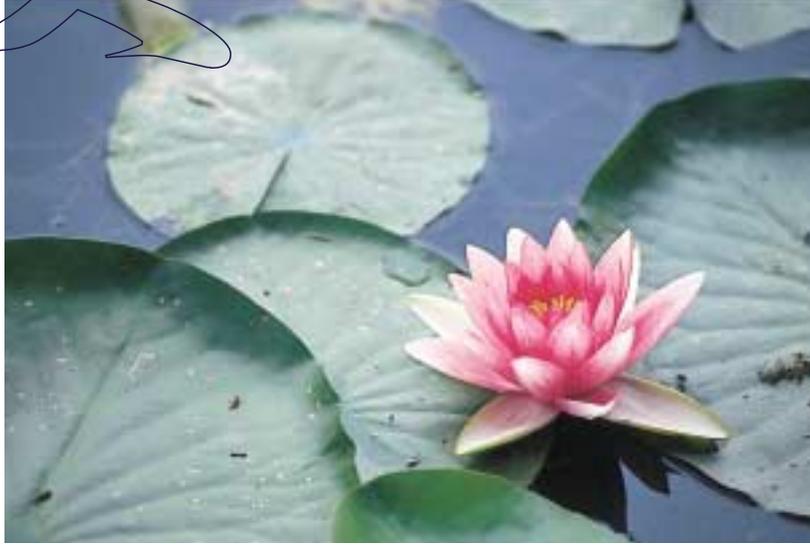


川辺小学校の「旗持ち入学」

つくしやタンポポの咲く小道を晴やかな笑顔の子どもたちが学校へと急ぐ。新学期をむかえて、心も身体も軽やかに喜びを表現している。子どもたちの顔が朗らかで純真なのは、幼い頃から自然の中でゆっくと深呼吸しながら育ってきたから。そして春は遠足や運動会など、村のあちらこちで賑やかな声援がとびかうときでもある。二世代・三世代が一緒に暮らし、祖父母が孫の成長を喜び、初節句を祝う。少し前の日本の古き良き家族像がここに残っている。新しい世代と古い世代が共に歩みながら、お互いを尊重しあい敬うことの大切さ。新しい村づくりへの豊かな思索は、そんななにげない日常から生まれてくる。



夏



夏の深緑と強い日差しに心
惹かれるのは、わたしたち
の祖先が森林の中で生まれ、
その恩恵をうけながら進化
してきたからだ。蓮の花が
まばゆいばかりの陽の光を
受けながら、涼やかな陰を
つくり村をやさしく包む。





限らない清流。
渾々と湧く生命の水。